

令和3年度（2021年度）

臨時教育委員会会議資料

選定意見書

社会（歴史的分野）

教科書 番号	発行者	ページ
705	東書 (令和2年度作成 意見書)	1
705	東書 (教科書展示会の結果)	2
712	自由社 (意見書)	3
教科書展示会の全体結果		4

発行	観点	調査結果
東京書籍	1	各章の「探究課題・探究のステップ」各節の「探究のステップ」各単元の「学習課題とチェックとトライ」、章末の「章のまとめ」「チャートを用いたまとめの活動」と続く構成で学習に見通しをもたせるよう、とても工夫されている。(19、36、58、60頁など)
	2	見やすい写真資料や、「スキルアップ」を設定し、「読み取る」「まとめる」など学習活動①を明確に示し、主体的な学びを促すよう、とても工夫されている。(9～11頁など)
	2	②「みんなでチャレンジ」「探究のステップ」では課題提起がされており、小集団活動や対話的な学びにつながるよう、とても工夫されている。(19、34、36、63頁など)
	3	③資料に「歴史的な見方・考え方」が示され、「比較」「関連」「推移」「現在」などを明記し、学習の焦点化がしやすいよう、とても工夫されている。(9、11、12～13頁など)
	3	章末の「もっと歴史」では、「QRコード」(140頁など)や「Dマークコンテンツ」(8頁など)を取り入れ、ICTを活用した補充的学習がとても充実している。
	4	近代産業の発展を支えた工女の姿から、女性たちが日本経済の発展への貢献を紹介し、職業に対する性的な差別や偏見をなくす配慮がみられる。(172～173頁など)
	5	「持続可能な社会に向けて」では持続可能な社会創造の具体的開発目標(SDGs)の17の目標を図示し、自分たちにできる事を考え、社会の形成者として行動する態度を育むよう、とても工夫されている。(270～271頁)
	6	「もっと歴史 震災の記憶を語りつぐ」などで様々な震災を多面的に捉え、先人の知恵を受け継ぎ、今後どのように行動すべきかを考えるよう、工夫されている。(274～275頁など)
7	「国境と領土の確定」に加え、特設の「領土をめぐる問題の背景」を設け、領土に関する歴史的経緯や領土への意識を高める内容がとても充実している。(178～181頁など)	
8	アイヌ民族や琉球について「東アジア世界の国々の交流と琉球文化」、特設「アイヌ文化とその継承」を通して、多文化共生と尊重の視点をもたせるよう、とても配慮されている。(90～91頁など)	
教科書展示会の結果(学校 10 一般 4 合計 14)		
<p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元構成が、他の教科書よりも大きく捉えることを大事にしている、わかりやすかった。また、世界史の部分が増えたが、小単元の構成や、掲載されている資料もこれまでの東書の教科書とほぼ同じだったので、使いやすいと思った。 ・従来のもより、注釈の部分が大きくなり見やすくなった。 <p>【一般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度までの教科書よりも、海外史の扱いが増えており、日本の歴史にともなう世界の背景を詳しく学べる点が良いと感じた。 ・多くの資料があるものの、あまりに情報量が多い為、苦手な生徒からすると、学ぶ意欲が下がる気がする。 		
選定委員会の意見		
<p>小学校での学びを基礎とし、中学校での歴史学習との円滑な接続のために、章のはじめにイラストを交えた年表を設け、歴史を大観し、関心・意欲をもって学習に臨めるよう工夫されている。</p> <p>写真や統計、コラムなど資料が豊富で、生徒の実態に応じて様々な視点からの資料を読み取る力や知識・技能の習得、基礎・基本の定着から発展的な深い学びに至るまでの幅広い学習が期待できる。郷土に関する内容も豊富で歴史を身近に感じることができ、歴史学習への意欲の向上が期待できる。章・節・単元とそれぞれの課題が設定され、学習の狙いが明瞭である。</p>		

発行	内 容 (学校 6 一般 1 合計 7)
東京書籍	<p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初の章に十分ページをさき、振り返りをしっかりとできるようにしてある。また、絵を使ったり時代区分、時代の捉え方もわかりやすしたりと工夫が見られる。 ・東京書籍の教科書が内容的にはくわしく記述してあると思った。 ・熊本市採用。問題なし。 ・『地図』という教科書が出されていて、従来の地図帳よりも使い勝手がよさそうで、是非使ってみてみたいと思った。 ・東京書籍の地理の教科書では、写真、グラフ、データなどが豊富で、これまで資料集と併用していたが、資料集は不要ではないかと思う内容だった。 ・使い慣れているせいか、他の教科書と比べるともっと豊富な資料があればと感じる。ひとつの出版社に偏らず、機会があるたびに他の教科書を使ってみてみたいと思った。 <p>【一般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やや文字の量が多いが、資料も見やすく、バランスよく構成されている。

発行	観点	調査結果
自由社	1	章末に「調べ学習のページ」「復習問題のページ」「時代の特徴を考えるページ」「対話とまとめ図のページ」と続く紙面構成になっている。(64～68頁など)
	2 ①	章のとびらや見開きページに掲載された資料の気づきや疑問をキャラクターの吹き出しに記載している。(19頁など)
	②	「コラムもっと知りたい」や「コラム人物クローズアップ」など、先哲の偉業を紹介するコラムが充実している。(135頁など)
	③	「時代の特徴を考えるページ」があり、「歴史用語ミニ辞典」「時代比較の問題」「人物比較の問題」「ひとこと作文」に取り組むことで、各時代がどのような時代だったのかを振り返る構成になっている。(103頁など)
	3	「知っ得ポイント」として、本文で取り上げた歴史的事象に関連した内容のコラムが設けられ、補充的な学習を促すよう工夫されている。(49頁など)
	4	「人物クローズアップ 日本の実業家の伝統をつくった渋沢栄一」では、商人としての誇りと高い道徳心を説いたことが紹介されている。(204～205頁)
	5	第6章の「時代の特徴を考えるページ」では、学習したことを元に、日本が高度経済成長をとげた要因について、意見を交換する場が設定されている。(287頁)
	6	「もっと知りたい エコロジー都市江戸」では、江戸が完備された上下水道と無駄のない資源再生システムを有していたことを知ることで、環境に配慮された都市だったことを学ぶことができるよう、工夫されている。(142頁)
7	郷土熊本に関して、「蒙古襲来絵詞」、主な戦国大名「相良氏」、「島原・天草一揆」、明治憲法草案を書いた「井上毅」、孫文を支援した「宮崎滔天」など多くの本文や資料があり、郷土の歴史や文化を学べるよう、よく工夫されている。(80、92、123、186、199頁など)	
8	「もっと知りたい 日本の近代化とアイヌ」を通して、日本政府がアイヌの人たちにどのような政策を行ったかを知ることにより、多文化共生の視点を持たせるよう、工夫されている。(175頁)	
教科書展示会の結果(学校 2 一般 2 合計 4)		
<p data-bbox="263 1328 343 1361">【学校】</p> <ul data-bbox="263 1373 1433 1485" style="list-style-type: none"> ・信憑性に疑問のある好太王碑文の扱いや本文に神話の内容を大量に記述、満州国建国の正当化、大東亜戦争を見出しに使うなど、あまりに著者の考えが強く打ち出された教科書で、公教育で使うことは好ましくない。 <p data-bbox="263 1496 343 1529">【一般】</p> <ul data-bbox="263 1541 1433 1686" style="list-style-type: none"> ・日露戦争や日中戦争(支那事変)、大東亜戦争(太平洋戦争)についての記述が、日本を正当化するものばかりである。極端な記述で、中立性が保たれていない。 ・自由社が最も優れているように思います。我々日本国民はそろそろ自虐史観と言う名の悪夢から目覚めるべきなのです。 		
選定委員会の意見		
日本の伝統や文化について、史料が豊富で分かりやすく理解できるよう、工夫されている。また、我が国と郷土を愛する態度を養うための学びを深める工夫がなされており、熊本出身の人物や熊本に関係する資料を多く取り扱っている。		

令和3年度(2021年度)

教科書展示会 社会(歴史的分野)に関する全体的な意見

中学校 種目(社会(歴史的分野))

全体的な意見 (学校 8 一般 5 合計 13)

【学校】

- ・QRコードが教科書欄外にあり、読み込むと記述に関連した資料が閲覧でき、非常に有効だと感じました。
- ・資料が豊富になっていると思う。ただ、写真などから大きめでスペースをとっている教科書がある。もう少し小さく製本できるのではと思う。
- ・全体的に、どの教科書も図や写真が大きくカラーで見やすくなっている。
- ・歴史・地理に関しては学年をまたいで学習するので、上巻・下巻にわけてほしい。(教科書の軽量化のためにも)
- ・UDに配慮されている教科書は情報量が適切でとても読みやすかった。
- ・どれも資料が豊富に掲載されていてわかりやすく作られていた。
- ・どの教科書も小学校とのつながりを大切に編集されていると感じた。
- ・深い学びに向けた様々な学習活動が提示してあり、興味深かったです。とくにシンキングツールを活用したまとめが充実しており、授業でも実践してみたいと思いました。

【一般】

- ・日本国憲法が当時の国民にどのように受け入れられたのか生徒に伝わるような教育をお願いします。
- ・(南北朝)の記述が会社によって違うのはなぜだろう。現在は東京書籍を熊本市は使用しているので、他社のを比べてみました。育鵬社(南北朝の合一)、自由社(南北朝の争乱)、学び舎(南北朝の内乱)、帝国書院(南北朝時代)、日本文教出版(南北朝の動乱)、山川出版(南北朝の動乱)、教育出版(南北朝の内乱)。自由社の沖繩、アイヌ民族の記述→沖繩とアイヌの方が読んだらどうだろう。目上から見ているのでよくない。
- ・中学教科書「歴史」で、自由社が新たに加わっていますが、昨年採択されたばかりの中学教科書に、新たに採択が必要だったのでしょうか。疑問です。
- ・市議会では「従軍慰安婦」と言う言葉があると、日本政府がいかにも関わったように誤解を受けるから「墨ぬり」をさせるべきとの発言でしたが、時代錯誤の感覚に驚いています。これまで中学校の歴史教科書でもいわゆる「危ない教科書」として大きな問題になってきた歴史修正主義的な発想で、日本の過去の過ちに「ふた」をして教えることには反対です。生徒たちが成人して外国の人々と交わる際、きちんとした理解を持っていなければ、彼らは恥をかき社会的に相手にされなくなることを心配します。
- ・三社(東書・教出・日文)とも資料の内容、配置の仕方、文字の量のバランスを考えられ、見やすさとしてはほぼ同じように感じたが、「日本文教出版」のものが文章量が少なくなっており、一番見やすかった。